

# アジアの友邦と共に！！

ミャンマー教育推進プロジェクト同志会

団長 衆議院議員西村眞悟

最新情報 No. 5

平成17年（2005年）2月23日 ミャンマー教育省学校建設認可申請  
平成17年11月13日 校舎完成  
平成18年（2006年）1月27日 先生用椅子机、生徒用椅子机搬入  
平成18年2月2日 国旗掲揚台完成し、ミャンマー教育省に引き渡す  
平成18年6月より新校舎にて新学期を迎える

トンテ村小学校授業風景

（正式名称はトンテー郡区バヤーゴッティ村南小学校）

平成19年（2007年）6月18日取材

皆様のご協力の下、トンテ小学校も引き渡しから1周年を迎え、この6月で2回目の新学期（ミャンマーは6月が新学期だそうです）を迎えました。先生は4名全て女性です。生徒数は男子38名、女子30名の合計68名、今回の取材も前回同様、現地法人旅行社代表 金澤聖太氏に取材、翻訳、文房具の手配をお願いしました。

平成19年(2007)6月18日撮影



↑引き渡し後1周年を経たトンテ小学校、橋が新設されてます。



↑トンテ村旧小学校  
平成17年(2005)2月撮影



↓左端：\$30の国旗掲揚台、塗装が少しはげ始めました。  
右端：賛助者銘板



←校庭内に井戸が新しく設置されていました。

# 授業中



授業中ですが子供達はカメラが気になるようで視線がこちら向き???



← 授業が終わり休憩時間  
何故か、机の下に生徒が一人

贈呈した椅子、机と  
旧小学校のが混在してます。

← 銀色の円筒形はお弁当箱  
↓ 下がご飯で上がおかず



の2段重ね  
3段重ねも  
有ります。  
ボロに成っ  
た椅子、机  
も大事に使  
かってま  
す。



↑ 文房具の梱包をほどく先生



↑ 配布開始、生徒の腕組みは敬意の表明



← はい  
どうぞ  
生徒一人に  
ノート2冊  
と鉛筆3本  
贈呈

→ 兄弟かな？  
兄ちゃん！  
貰ったよ！！  
おう！  
良かったね  
そんな会話  
かな？





↑ 表情がすばらしい



↑ 68名に配り終えホットする校長先生（左）と新任教師（右）ご苦労様でした。残りの文具は予備です。全部で100名分寄贈しました。

※ノート2冊+鉛筆3本=810Kyat（チャット）100名分で81,000Kyat  
日本円に換算すると約¥8,131です。

（6/22 交換レート 12,60Kyat=US \$ 1 = ¥127.06 81,000チャット ÷ 1,260チャット = \$ 64 × ¥127.06 = ¥8131.84）

緑のロンジーに白の襟なしブラウスが教師の正装です。




6月22日 来日した金澤さんからうれしい報告を頂きました。西村眞悟さんを団長として皆様の協力で建立したこの学校がモデルケースとなっているようで、ミャンマー教育省大臣が視察に訪れた際、本来先生が3名なのに、4名なのは？と尋ねられ「私はボランティアです。」（写真右端の女性です。）と応えたところ、教育大臣が感心なされ本採用にして下さったそうです。これも日本人皆様のお陰です。

一方で暗いニュースもあります。ミャンマーに学校建設をしている、日本人団体は結構有るのですが、教育

大臣との会見でミャンマーは貧しいから我々が寄附してるんだと横柄な態度で望んだそうです。以来日本からの学校建設許可は非常に厳しい状況に成っているそうです。トンテ小学校建設の際、教育省担当者に、西村眞悟団長の言葉をお伝えしました。「先の大戦で19万人の将兵がこの地ミャンマーで戦没しました。貴国の国民が未だに暖かくそれを迎入れ供養して下さい。貴国の国民の友情に感謝しています。」教育省との折衝はここから始まったのです。銘板には「ミャンマーの人々と共に」の 日本文と英文は“Friendship of Myanmar and Japan”と記させて頂きました。

今回の取材に当たり、トンテ村小学校とバゴ寺子屋の取材費、翻訳料、交通通信費  
 他と文具の手配、寄付金を含めUS \$ 550で金澤さんをお願いしました。  
 文具の寄附の他、村と学校に10万チャットを寄贈させて頂きました。寺子屋に  
 関しては、浄財がなかなか集まらなく運営が大変のようです。僧院長の許可を頂き  
 10名の先生方にTシャツ1枚と10,000チャットずつお渡ししました。  
 トンテ村学校と寺子屋の合計20万チャットは日本円に換算すると  
 約¥20,075です。(200,000チャット÷1,260チャット=US \$ 158 × ¥127.06=¥20,075.48)  
 詳細は巻末の会計報告をご覧下さい。

これから紹介させて頂くのは、関係者からの礼状の翻訳文です。



ရက်စွဲ  
 ၁၈.၆.၂၀၀၇

ကျောင်းသုံးစာအုပ်နှင့် စာရေးကိရိယာ ပျဉ်းစား  
 ရှာဖွေအဖွဲ့များသို့ ကျေးဇူးတင်စွာ ပေးပို့ခြင်း

စေတနာရှင် ဂျယ် အဖွဲ့များမှ အ.မ.က ဘုရားငုတ္တိ(တောင်)  
 ကျောင်းသို့ ဗဟုစာအုပ် ၁၇ ဝါဒါဏ် စဲတံ ၂၅ ဝါဒါဏ် ပေးပို့  
 ပျဉ်းစားသည့် ဂျယ် အဖွဲ့ အဖွဲ့များကား အ.မ.က ဘုရားငုတ္တိ(တောင်)  
 ကျောင်းမှ ကျောင်းထား / ကျောင်းသူများ၏ ကိုယ်စား ကျောင်းအုပ်ဆရာမကြီး  
 နှင့် ဆရာမများမှ အထူးထံ ကျေးဇူးတင်ရှိပါကြောင်း လျှောက်ပို့စွာ ပြောကြား  
 ခံဝပ်ပါသည်။

ယခင် ကျောင်းထားပေးပေး တွင် ကျွမ်းကျင်ကျွမ်းကျင် စာသင်ကြားခြင်း  
 မှ အဖွဲ့များ ပျဉ်းစား ကျောင်းသစ်ကြီးဖြင့် စေတနာထမ်းပမ်းမှုနှင့်  
 အလုပ်ရောင် ကောင်းစွာ ရရှိပြီး ကျန်းမာရေးနှင့် သိက္ခာ ယာယာသင်ကြားခြင်း  
 ကျောင်းထားကျောင်းသူများ လာရောက်ရ ပြန်လည်ခြင်း စာသင်ကြားရာတွင်  
 ကျွမ်းကျင်ခြင်းဖြင့် ကျောင်းတော်ကြီး ပျဉ်းစားပေးစော ဂျယ် အဖွဲ့ အဖွဲ့များ  
 များကား အ.မ.က ဘုရားငုတ္တိ (တောင်) ကျောင်းမှ ဆရာမကြီး / ဆရာမ များ  
 နှင့် ကျောင်းထား ကျောင်းသူများမှ အထူးထံ လျှောက်ပို့စွာ ကျေးဇူးတင်ရှိပါသည်။

အဖွဲ့များ ပျဉ်းစားစော ကျောင်းတော်ကြီး ရေရှည် တည်တံ့  
 ဝိုင်းခြံစေရန် ဆရာမ များနှင့် ကျောင်းသူ ကျောင်းထားများမှ ဆက်လက်  
 တိုးတက် စောင့်ရှောက် ထားပါစေရန် ဖြစ်ကြောင်း ထပ်ဆင့် ပြောကြားခံဝပ်ပါသည်။

ဆရာမများကားလျှင်ကား အဖွဲ့စု ပေးအပ်  
 သည့် အထူးထံ အထူးထံ လျှောက်ပို့စွာ ကျေးဇူး  
 တင်ရှိပါသည်။

ကျောင်းအုပ်ကြီး  
 ကျောင်းအုပ်ကြီး  
 ကျောင်းအုပ်ကြီး



↑ 我々に対し礼状を書く校長先生

← 校長先生の感謝状

2007年6月18日  
 ノート及び鉛筆を寄附してくれた日本人  
 支持者への感謝状  
 標記の寄附、日本人支持者と日本人寄付  
 者による17ダースのノートと25ダース  
 の鉛筆のペヤゴット村の小学校への寄附に  
 関しこの小学校の校長である私と全ての  
 在籍する生徒が日本人支持者と寄付者に  
 対して心より感謝の念を伝える次第です。  
 かつてこの学校は(3頁参照)勉強をする  
 生徒に本当に狭く小さなものでした。それ  
 が、最近、建設された学校は広く広がった  
 棚があり(入り口前のテラスのことか?)

新鮮な空気が得られ生徒達にも非常に清潔なものです。それ故、全ての生徒と私は日本の  
 寄付者に対して尊敬と感謝を伝えるものです。

現金による基金の寄附を、全ての教師と私は深く日本人寄付者へ感謝の念を表すもので  
 す。我々、ペヤゴット村はこの学校を長く安定的に管理するものです。

校長 ドー・モー・トリ  
 ペヤゴット村小学校、トンテ町、ヤンゴン管区、ミャンマー



翻訳文のみ掲載

日本人寄付者への感謝状

2007年6月18日

私は教師養成コースを終了後、ペヤゴット小学校に赴任いたしました。この村は新しい学校を建設することは本当に無理でしたが、この学校がもっと大きければ生徒にも我々教師にも本当にいいのにと考えたものでした。私も寄付をしたかっただのですがお金が足りませんでした。ですから本当にこの学校建設への日本人寄付者の方々に感謝するものです。全ての生徒達が心から日本人寄付者の方々に感謝いたしております。私はここの生徒達の更なる教育の機会の向上に努めることを日本人寄付者の方々と支援者の方々に深く学校建設の感謝をすると共に、このことを約束するものです。

ドー・テイン・ティ

ペヤゴット小学校、トンテ町、ヤンゴン管区、ミャンマー



翻訳文のみ掲載

日本の寄付者の方々へ

2007年6月18日

私はティ・ティ・イーと言う、この小学校の教師です。この小学校はこの村に1984年の6月に政府によって建てられました。私は1986年の12月1日にこの学校に赴任し20年以上奉職しております。我々の学校は初め、この村に入り口に位置しておりその頃は4.5㎡の広さと竹製の壁、鉄製薄板の屋根で非常に貧しく、生徒に十分な机も椅子もありませんでした。しかし1990年に政府が改築工事を行い、そして2005年にJapan-Myanmar Friendship使節団が到着し新しい学校建設の基金を寄付し、以前は学校がなかったラインタヤー・トンテ道路の傍にトンテ村役場とトンテ村教育委員会の助けにより敷地を確保できました。

ここに全ての教師、校長、全ての村人、生徒は広く清潔なる新しい学校を本当に喜んでおります。

ここに我々全員は上記の寄付に関し日本の寄付者の方々に本当に感謝し、皆様方の一層の発展と健康を祈るものです。

ドー・テー・テー・イー

ペヤゴット小学校、トンテ町、ヤンゴン管区、ミャンマー



翻訳文のみ掲載

日本よりの寄付者及び支持者の方々へ

2007年6月18日

私はこの小学校のボランティア教師の一人です。文部省がこの小さな新しい学校に働くことを許してくれました。(本採用のことだそうです。)私は日本人の寄附で与えられた貧しい生徒達への将来への教育、改築された新しい学校での貧しい生徒達への教育振興の機会に深く感謝するものです。ミャンマーのこの村の小学校を設立してくれた日本人寄付者と支持者に心より感謝いたします。

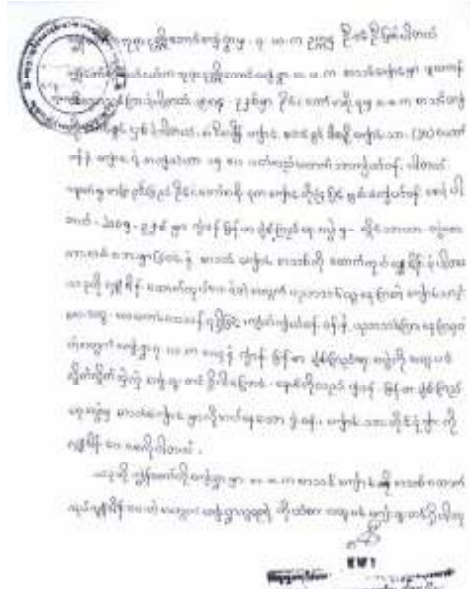
ドー・エイ・サンダー・モー

ペヤゴット村小学校、トンテ町、ヤンゴン管区、ミャンマー

翻訳の順序はミャンマー語→英語→日本語の順だそうです。



以前の村長は退任  
され新たに就任され  
た村長



私、ウー・ウィン・オーワードはペヤゴット村の村長です。私の子供時代は1984年（昭和59年）に政府によって建てられたペヤゴット村のこの古い小学校に通ってました。その当時は生徒数20人ほどで4,5m四方の小さな教室が1つでした。その後、政府によって教室を増やす拡張工事がなされました。2005年（平成17年）に日本ミャンマー友好協会（我々の事か？）によって寄附された基金によって新しい校舎がラインタヤトンテ道路に面して建てられました。この基金により生徒は大きく新しい学校で教育を進めることができいております。我々、トンテ村役場は村を代表して新しい校舎を寄附してくれた日本ミャンマー協会感謝するものです。

ペヤゴット村・村長

ウー・ウィン・オーワード

ここからは、バゴの寺子屋です



修復前 平成16年(2004)12月7日撮影



平成17年6月24日修復終了後2年目  
平成19年7月12日撮影



←朝の挨拶、  
机に文字が有るのは皆様からの寄贈品です。

この寺子屋の奥にバゴで散華した英霊の慰霊碑が有り平成17年2月参加者のお一人佐藤進さんの御父君はこの地で果てられました。また、南英雄さんの叔父君もビルマの広い大地のどこかに眠って居られるとの事でした。



僧院長を通して各教師への白いTシャツと1万チャットの日本よりの寄付支持者様へ  
教師一同、日本からの寄附に感謝しており当僧院学校における、これからの  
教育振興を向上させるものです。

僧院長 バダナ・テイゼンナ

チェニカン僧院学校、マジンワード、バゴ町、バゴ管区、ヤンゴン



↑ 贈呈の様様



↑ 日本からの、のし袋とTシャツ

金澤さんが来日した際に託したTシャツとのし袋、のし袋には  
寿・団長 西村 眞悟と書かせて頂き、1万チャットずつ10名の先生に差し上げました。  
金澤さんからのコメントで、国内でのインフレが進み国民は物価高に悩んでいる。  
そんな折りの喜捨ですから、先生方はことのほかの喜びようでした。とのこと。  
1万チャットは日本円に換算すると約¥1,008です。



←平成17年2月20日インレ湖の水上小学校にて  
生徒に文具を手渡しする団長 西村 眞悟さん  
中央は先生

平成17年2月に実施した旅行記の中から  
団長 西村 眞悟さんのコメントを改めて  
掲載させて頂きました。

『慰霊と教育とは、この二つのことは不可分であって、この旅がその実体を示して  
おると思います。19万のこのビルマの土になられた日本軍将兵はこのビルマを愛して  
るんだと思いますね。ここの大地から生まれてくる子供達の未来をですね、幸多かれと  
願うことですね。英霊も願い、我々は英霊の願いを實踐しにここに来た。こういう思い  
を理屈でなく肚の底から感じた旅でありました。思い出しますね。この団に参加した  
みんなは、あの子供達の顔、思い出します。ああいう顔は日本人の顔でもあるんです。  
我々は少々豊かになりすぎた社会に住んで、この地の人々は地球上で最も貧しいレベル  
だと言われている。貧しさの中に住んでいる貧しき者と、豊かな者が一同に介した時に  
差はあるのかと思えば、豊かな者はむしろ貧しき者に教えられるという感じがします。  
鉛筆ノートを渡した子供達一人一人が圧倒的な存在感で、豊かな国から来た我々を教え  
てくれてるなあと思いますね。有意義な旅でした。本当にまた来たいなあと思います。  
ありがとうございました。』

平成17年2月21日 旅の最後の晩餐会でのコメント